車いすの安全なご利用

★ 目次 ★

車いすのご利用にあたって	1
保守･点検について	2
保証について	4
自走者の車いす利用方法	6
移乗のしかた	6
介助者の車いす利用方法	10
基本事項	10
移乗のしかた	12
食事	17
移動	18
いろいろな車いす	22
車いすの種類	22
車いすの機能と付属品	25

株式会社カワムラサイクル

[1]車いすのご利用にあたって

車いすは､正しく安全に使えば､利用者や介助者にとって大変便利で有効な道具になります。以下の事項を守って正しく安全にお使いください。

①取扱説明書

取扱説明書には安全にご使用いただくために必要な注意事項や正しい使用方法が記載されています。ご使用になる前に必ずよくお読みください。また、お読みになった後は大切に保存してください。

②定期的な点検が必要です。

安全にお使いいただくために、使用前の安全点検に加え、定期的にネジの緩みや異音の発生などがないか、１ヶ月に１度程度の定期的な点検が重要です。

③なるべく介助者が付き添ってください。

福祉用具の使い方に慣れるまで、あるいは慣れた後も不安がある場合は、できるだけ介助者が付き添ってください。

1.保守･点検について

①日常の点検について

車いすを使用する前に、安全のため各部の点検を行ってください。

＜装着品の確認＞

・背ベースシート、座ベースシートは、しっかりと固定されていますか？
・背クッション、座クッションは、しっかりと取付けられていますか？
・背折れ金具は、しっかりと固定されていますか？
・肘掛け（アームサポート）は、しっかりと固定されていますか？
・クロス（座シートパイプ）は、しっかりと受けに収まっていますか？
・脚部（フットレッグサポート）は、しっかりと取付けられていますか？
・足ベルト（レッグサポート）は、しっかりと取付けられていますか？
・ステップ板（フットサポート）は、しっかりと取付けられていますか？

＜後車輪の確認＞

・タイヤに空気が十分入っていますか？（タイヤを指で押しても容易にへこまないか）
・バルブが緩んでいませんか？
・タイヤにキズがありませんか？異物が刺さっていませんか？
・タイヤの溝が十分残っていますか？変形していませんか？

＜ブレーキの確認＞

・駐車ブレーキ（及び制動用ブレーキ）が正しく作動しますか？
・ブレーキをかけた状態で後車輪が回転しませんか？

＜肘掛け(アームサポート)＞

・スムーズに（上下）作動できますか？
・しっかりと固定できますか？
・キズや亀裂等はありませんか？

＜脚部(フットレッグサポート)＞

・スムーズにスイングアウト、脱着できますか？
・しっかりと固定できますか？
・ステップ板（フットサポート）がパタパタしていませんか？
・キズや亀裂等はありませんか？

＜全体的に＞

・ガタつきはありませんか？
・まっすぐに走りますか？
・各部ボルトやナットが緩んでいませんか？
・背折れ金具がしっかりと固定されていますか？
・背クッション、座クッションがしっかりと取り付けられていますか？
・ワイヤーが部品等に引っかかっていませんか？

②定期点検について

１ヶ月に一度は安全点検を行ってください。

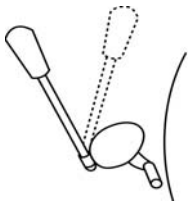
★タイヤに空気は十分入っていますか？

空気入タイヤをご使用の場合は、空気圧にご注意ください。
タイヤの性質上空気は自然と減っていくので １ ヶ月に１回は空気を入れてください。
適正空気圧は、タイヤの側面に記載されています。（目安として、タイヤを手で押してもやや硬い(軟式野球ボール程度の硬さ)に空気を入れてください。）
空気圧が低すぎると駆動が重くなり、またブレーキの効きが悪くなります。高すぎるとクッション性が悪くなります。

★タイヤの溝は十分認識できますか？

タイヤの減りが激しいものはパンクの原因になったり走行性やブレーキの効きが悪くなるので交換が必要です。また、タイヤやキャスタのひび割れにもご注意ください。

★駐車ブレーキはしっかり効きますか？

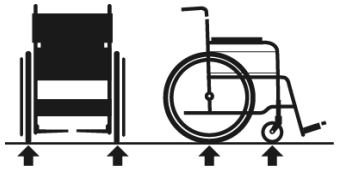


タイヤの空気圧が下がると駐車ブレーキの効きが弱くなります。
空気圧のチェックとともにブレーキの取付ネジの緩み、ブレーキ本体のガタなどがないかご確認ください。もし、異常がございましたら、直ちにご使用をお止め頂き、すぐにお買い上げの販売店までご連絡ください。

★変な音がしませんか?

変な音がする場合、どこでその音が発生しているかをご確認してください。ブレーキワイヤーが車輪に擦れている、ベアリング部の油分が不足しているなどの原因が考えられます。お買い上げの販売店までご連絡ください。

★四点接地していますか？



前輪二輪と後輪二輪が接地しているかご確認ください。
四点接地していない場合、フレームの歪みやネジの緩みが考えられます。直ちにお買い上げの販売店までご連絡ください。

★まっすぐ進みますか？

平地で車いすを左右均等な力で押してください。自然に曲ってしまう場合、どこかが歪んでいる可能性があります。お買い上げの販売店までご連絡ください。

★シートに破損やたるみ、傷みはありませんか？

湿気の影響を受けたり長時間続けてご使用になるとシートに破損・たるみが発生します。座り心地を損なわない姿勢が保ちにくくなりますので、たるみ・破損が著しい場合は交換をおすすめします。

★ネジの緩みはありませんか？

ガタがある場合は、ネジの緩みや脱落が考えられます。直ちにご使用を中止し、すぐにお買い上げの販売店までご連絡ください。

[2]自走者の車いす利用方法

以下の方法はほんの一例です。
ご利用者の症状や体調、介助者の状態、車いすのご使用環境などに合わせて工夫してください。

1.移乗のしかた

★車いすから立ち上がる際、足を床につけるスペースは十分にあるかどうかが重要です。取り外し容易な脚部が望ましいでしょう。
★肘掛けの先端を手で押しながら立ち上がる場合には、標準型の肘掛けが必要です。しかし十分に腰を上げられず身体を回転するときに肘掛けが邪魔になるような場合には、取り外し式、跳ね上げ式の肘掛けがよいでしょう。
★立ち上がる力が弱い場合には、座面の高さが重要です。慢性関節リウマチなどでは駆動方法と合わせて移乗能力も勘案して座面高を決めることが大事です。

①ベッドから車いすへ

［立ち上がって行う自力移乗］

① ベッドの手すりが健側に来るようにベッドに深く腰掛ける。車いすはブレーキをかけ、ステップ板を跳ね上げて使える手足側に置く。

② 使える側の手でベッドの手すりをしっかりと握る。

③ 前かがみになりながら、ベッドの手すりを支えに腰を上げ、立ち上がる。

④ 頭を上げ、ベッドの手すりを支えに健側の足でまっすぐにしっかり立つ。

⑤ 健側の手を伸ばして、肘掛けを握る。

⑥ 車いすの肘掛けを握ったら、健側の手足に重心を置きながら徐々に身体を回転させる。

⑦ 前かがみになり、手で肘掛けを支えとしながらゆっくりと座る。

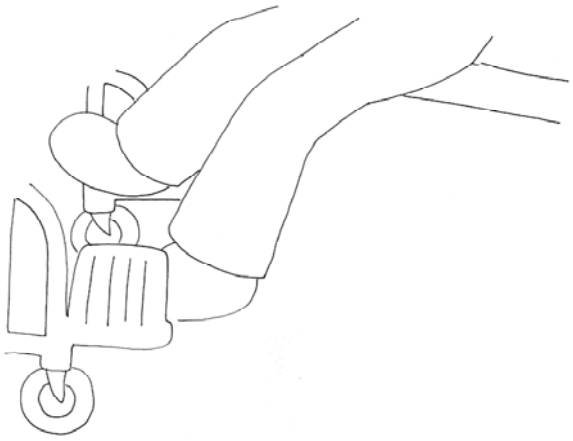
BM シリーズ

[座位移動による移乗]（車いす：肘掛け跳ね上げ式、脚部スイングアウト式･脱着式の場合）

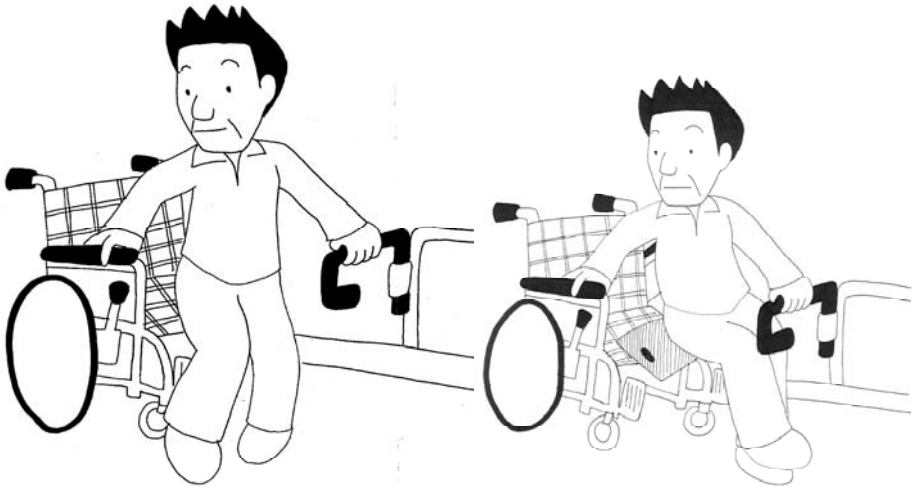
① ベッドと車いすの高さはほぼ同じにする。

② 端座位を取ったら、車いすの駐車ブレーキをかける。

③ 肘掛けを跳ね上げる、あるいは取り外す(肘掛けが機能付の場合)。



④ 足をベッドと車いすの中間に置く。



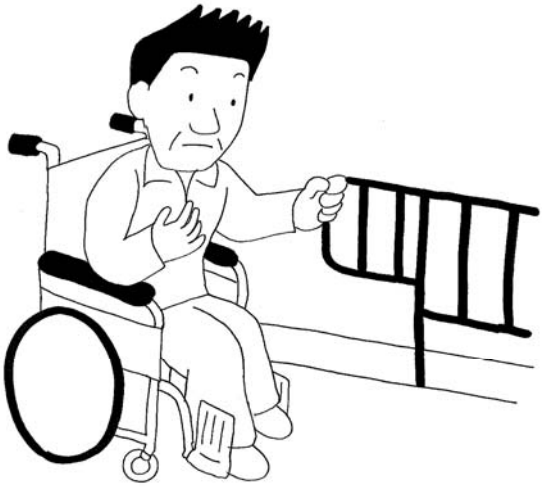
⑤ 少しずつお尻を横にずらして移動する。
（ベッドと車いすの間にスライディングボードを渡してお尻を滑らせる方法もあります。）

②車いすからベッドへ

［立ち上がって行う自力移乗］車いす：肘掛け固定式の場合

① 車いすをベッドに、斜め前に近づけ、駐車ブレーキをかける。

② ステップ板を跳ね上げて、足を床に下ろす。

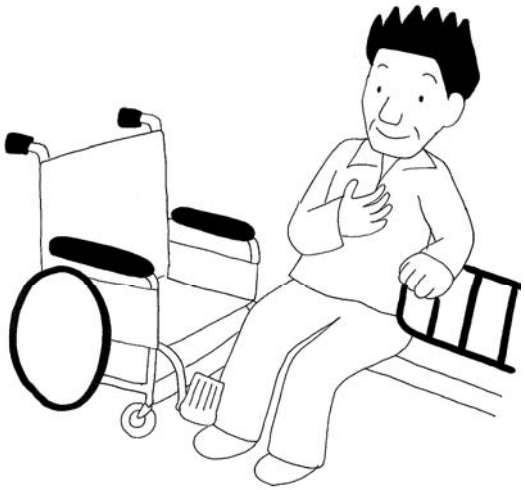


③ ベッドに出来るだけ近付き、ベッドの手すりをしっかりつかむ。

④ ベッドの手すりを使える側の手でつかみ、少し前かがみになって使える手足を使用して立ち上がる。

⑤ しっかりと立ったら、その場で足を中心にベッド側に身体を回転させる。
※車いすにぶつからないよう注意！

⑥ 回転後、やや前かがみになってゆっくりとベッドに座る。



⑦ 腰掛けたら、ベッドから落ちないよう深く座る。

KAK シリーズ

[座位移動による移乗]（車いす：肘掛け跳ね上げ式、脚部スイングアウト式･脱着式の場合）

① ベッドと車いすの座面高さをほぼ同じにし、車いすをベッドに、斜め前に近づける。

② 駐車ブレーキをかけ、ステップ板を跳ね上げて、足を床に下ろす。ベッド側の肘掛けを跳ね上げる。

③ 健側の手でベッドの手すりをしっかりと握る。

④ 少し腰を浮かせ、横滑りさせて少しずつベッド移る。
（ベッドと車いすの間にスライディングボードを渡してお尻を滑らせる方法もあります。）

健側の
りと握

⑤ ベッドに腰掛けられたら、ベッドから落ちないよう深く座る。

KA800 シリーズ

[3]介助者の車いす利用方法

以下の方法はほんの一例です。
ご利用者の症状や体調、介助者の状態、車いすのご使用環境などに合わせて工夫してください。

1.基本事項

①介助者の心構え

歩行が困難な状態でも、車いすを使えば外へ散歩に出ることもできます。行動範囲を広げることにより、気分転換や意欲向上にもつながります。体調が許すなら積極的に利用してみましょう。

車いすを利用するとき、介助者は以下のポイントに注意します。

- 車いすの点検、ブレーキの確認、タイヤの空気圧、ねじのゆるみなどをチェックします。
- 障害の種類や程度は十人十色です。どのように介助してほしいか、できるだけ本人の望む方法で介助しましょう。
- 乗り降り、停止は必ずブレーキをかけます。
- 乗り降りのとき、フットレストに足をかけない（転倒の危険）。
- 車いすに乗せたとき、身体が安定しない場合は、座ぶとんやクッション、安全ベルトで安定させます。
- お年寄りの体調や気分を確認して、無理に連れ出さないようにします。
- 一連の動作はゆっくりと、そして声をかけながら行います。
- 気温が低いときは毛布などで体温保持を心がけましょう。
- 介助をする時には、できるだけ軽装で。スカート、アクセサリー（指輪・ブローチなど）、ハイヒールは避け、腕時計もはずしておいた方がいいでしょう。
- 分からないことはせず、無理をしない。危険（ケガ）につながります。安全が第一で 。
- 介助者の姿勢にもご注意ください。無理な姿勢は腰痛のもとになります。

②車いすの押し方

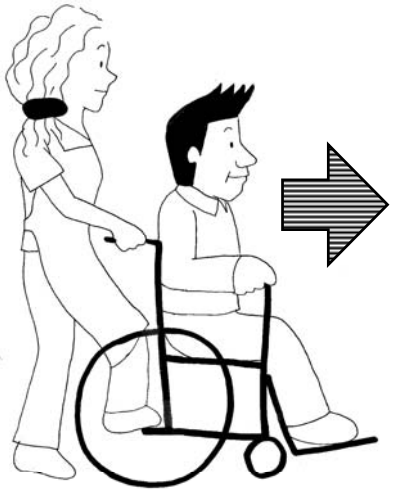
①車いすの真後に立ちます。
②両手でハンドグリップを深くしっかりと握ります。
③前後左右に注意してゆっくり押します。

③ブレーキのかけ方

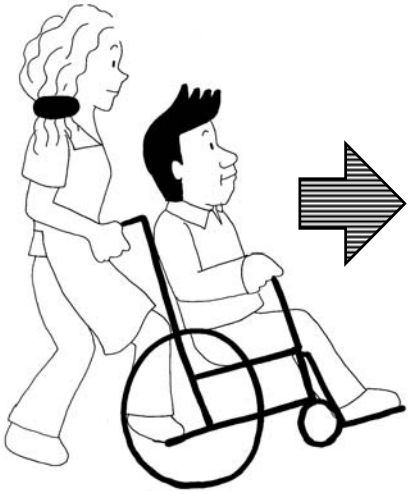
①車いすの横に立ちます。
②片手はハンドグリップを握り、もう一方の手でブレーキを完全にかけます。
③反対側のブレーキをかけます。

④キャスタの上げ方

★キャスタ上げを行う前にシートに深く座らせ、安全ベルト(シートベルト)が必要な人には着用させてから行うようにします。
★ハンドグリップは深く、しっかりと握り、滑りぬけないようにします。
★キャスタ上げをする時には、キャスタを上げる前に「キャスタ上げをします！」と忘れずに声をかけましょう。



①ティッピングレバーを踏んで、てこの原理でキャスタを浮かせます。(このとき、真下ではなく斜め前に力がかかるように踏みます。)



②手は、ハンドルで押し下げるようにします。この時、後ろに倒れすぎないように注意してください。(障害者にも身体をすこし後方へ倒してもらえば、軽く操作できます。)

③膝と腰を軽く曲げてバランスを保ちます。

⑤車いすの座り直し

① 患側の足を保護しながら、ステップ板に足を置く。

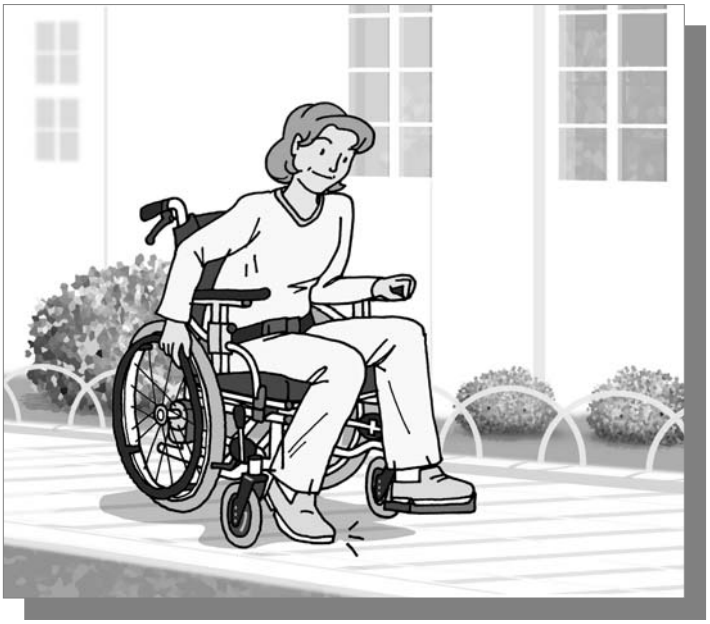
② 健側の足は出来るだけ自分でステップ板に載せてもらう。介助者は位置を確認する。

③ 利用者に患側を支えるように腕を組んでもらう。

④ 利用者の脇の下から手を入れ、利用者の腕を持つ。

⑤ やや下腹を持ち上げるような気持で、介助者側に引き寄せる。
※この時、介助者は両足を前後に開き、前足を背もたれの真ん中あたりにつける。持ち上げようとしない。

KZ シリーズ

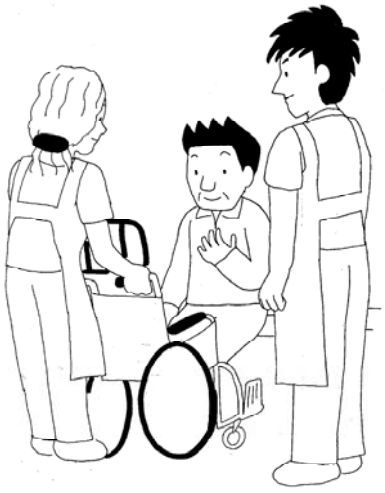


2.移乗のしかた

①ベッドから車いすへ

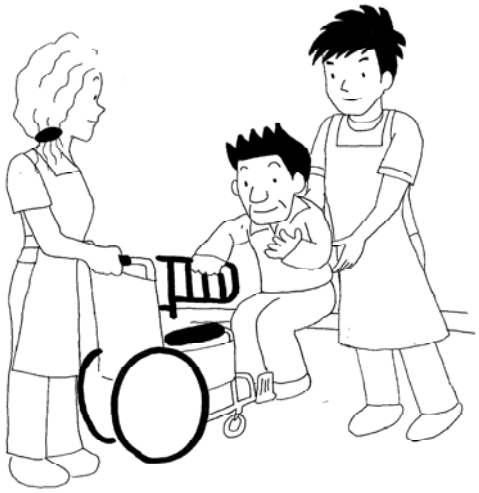
［一部介助の場合］

① 利用者はベッドに深く座る。



② 車いすは健側 30～40 度の位置に置き、駐車ブレーキをかけ、ステップ板を跳ね上げる。

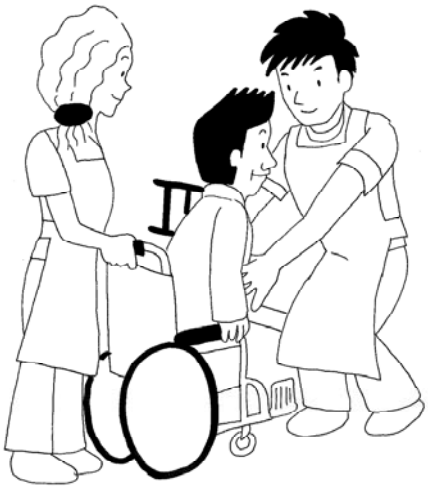
③ 利用者は健側の手でベッドの手すりを握る。



④ 利用者はお尻をずらしてベッドの端のほうへ浅く座り直す。介助者は肩を軽く押して前傾姿勢になるように補助する。

⑤ 利用者はベッドの手すりを支えにして立ち上がる。

⑥ 利用者は健側の手を伸ばして、車いすの肘掛けをつかむ。



⑦ 介助者は、利用者が回転し始めたら腰のあたりを支えてゆっくり座れるよう介助する。深く腰掛けているか確認する。

AYL シリーズ

[全介助の場合]

① 車いすを健側の近くに置き、駐車ブレーキをかける。

② 介助者は利用者の機能を活用するよう促し、健側にも配慮する。

③ 利用者は介助者の首から背中あたりを持つ。

④ 介助者は十分に腰を落として利用者を支える。

⑤ 利用者を介助者のほうへ引き寄せながら上体を起こす。

⑥ 利用者をしっかり抱え、患側の足を保護しながらゆっくり回転する。

⑦ 介助者は自分も一緒に座るような感じでゆっくりと車いすに座るよう介助する。

AYPF シリーズ

②車いすからベッドへ

［一部介助の場合］

① 健側の手足がベッド側になるよう、車いすでベッドに近付く。

② 足を車いすの脚部の位置まで引き、車いすの肘掛けを利用して立ち上がる。

③ やや前かがみになりつつ立ち上がる。介助者は常に患側で転倒しないように身体を支える。

④ ベッドの手すりを持ちながら健側の足を支点にして、身体を回転させる。

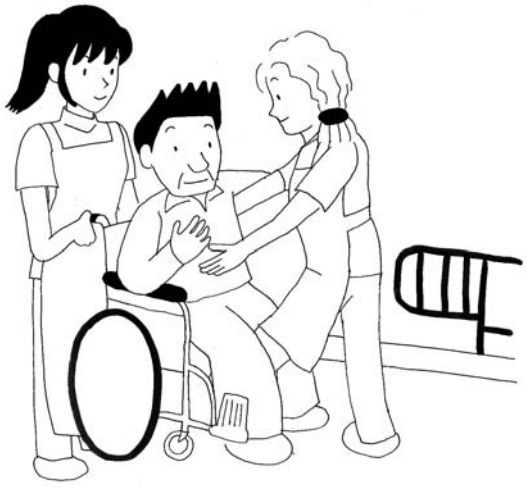
⑤ 利用者は介助者と向き合うように立つ。

⑥ 手すりと健側の手足を支えにし、ゆっくりと座る。

⑦ ベッドの上で安定するよう、手すりを手で支えながらお尻をずらして深く腰掛ける。

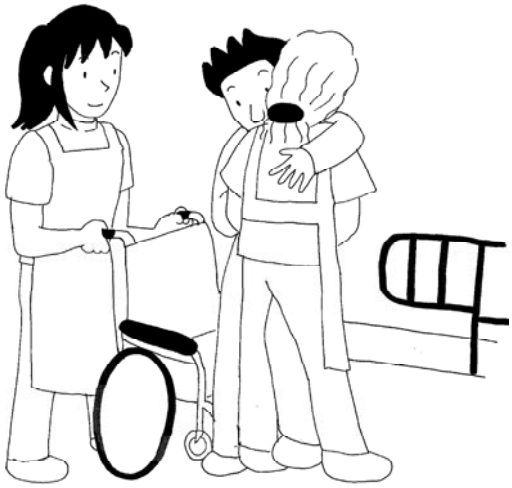
AY12-35

［全介助の場合］



① 介助者は利用者の足の間に自分の片足を入れる。

② 介助者は腰を低くして、後ろに引いた足でしっかり支え、利用者を両手で抱える。



③ 介助者は利用者を抱きかかえながら身体を起こし、その場でベッド側に回転する。

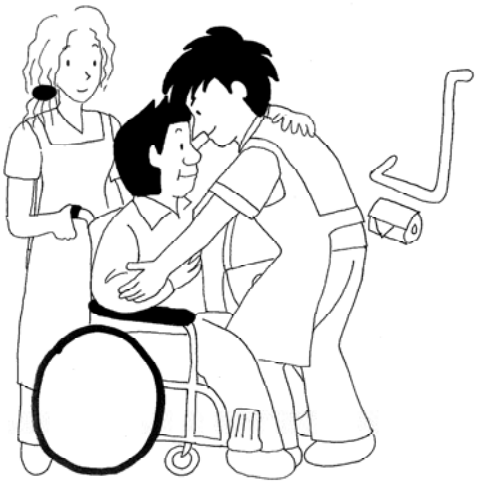
④ 介助者側が前かがみにならないように、介助者は自分の膝をしっかり曲げていく。

⑤ 介助者はしっかりと膝を曲げ、利用者の腰をベッドの奥のほうへ誘導する。

AYPF シリーズ

③車いすからトイレへ

① 車いすのままトイレに入り、駐車ブレーキをかける。



② 介助者は片足を利用者の間に置き、前後に開く。利用者は介助者につかまり、介助者は腰を低く下ろして一緒に立ち上がる。

③ 介助者は利用者の腰を支えるようにし、前後に開いた足でバランスを取りながら少しずつ身体をずらし、便座のほうへ利用者の身体の向きを変える。

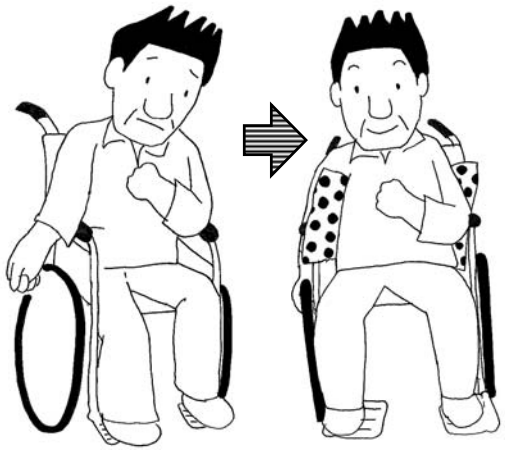
④ 健側の手で手すりにつかまる。介助者は必ず患側に立つ。

④ 介助者は患側に立ち、ズボン、下着をおろす。

⑤ 手すりにつかまってもらいながら、ゆっくり便座に座ってもらう。安定する姿勢になったら介助者はいったん外に出てドアを閉める。

3.食事

食事するときの正しい姿勢



麻痺や拘縮があると身体が患側に傾きやすくなるため、まっすぐな姿勢が取れるよう小さいクッションなどを患側の小脇、背中、肩に挿入します。

頚部から体幹が前傾し猫背になっていると嚥下しにくく、食べ物も下へ降りていきにくくなります。両肩を支えるような姿勢矯正バンドなどを活用しましょう。

4.移動

①歩道の走行、道路の横断など

車いすの安全な使い方は、“ゆっくり”“確実に”が基本です。

車いすは歩行者として取り扱われます。歩行者としての交通ルールを守りましょう。

- ●「自転車及び歩行者専用」、「歩行者専用」のマークのある歩行者専用道路も通ることができます。
- ●信号機のある場所では、「青」が点滅中に横断するのは危険です。次の「青」を待ちましょう。あせらずゆとりをもった横断、走行を心掛けましょう。

②段差乗り越え ※必ず左右輪同時に上り下りしてください。

[上るとき]

①「キャスタ上げ」の要領でティッピングレバーを踏んで押手を押し下げ、キャスタを上げます。
※この時、必ず声をかけてから行ないます。

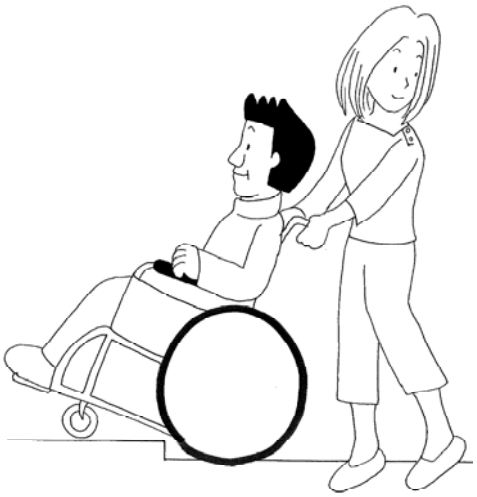
③後輪が段にぶつかったところで、体を車いすに近づけて、ハンドルを後輪を押し上げます。

②キャスタを上げたまま前に進み、キャスタをゆっくりと段にのせます。

［下るとき］

①車いすを後ろ向きにして、後輪を静かに下ろします。
※この時、必ず声をかけてから行ないます。

③段差から離れて車いすの脚部やつま先が当たらないよう静かにキャスタを下ろします。



②ティッピングレバーを踏んでキャスタを上げ、車いすを後ろに引きます。

KA6

環境配慮型車いす
KR801N・KR501

環境配慮型車いす
KA202 シリーズ

③溝越え

※予め溝の大きさを確認し安全に渡れる場合のみ実施してください。

①「キャスタ上げ」の要領でティッピングレバーを踏んで押手を押し下げ、キャスタを上げます。
※この時、必ず声をかけてから行ないます。

③次に後輪を持ち上げて前に進み、溝を完全に越えたところでゆっくりと後輪を下ろします。

②キャスタを上げたまま前に進み、溝を越えた向こう側にキャスタをゆっくり下ろします。

＜電車の乗り降りにも応用できます。＞

①電車を待つとき、乗車中は必ず駐車ブレーキをかけましょう。
②電車を利用することが、あらかじめ分かっている時は、電話で駅員の介助をお願いしてもいいでしょう。
③車いす専用のスロープがある場合は、そこを利用しましょう。
④遠慮せず人の手を借りましょう。

④坂道

［上るとき］

押す人は身体を少し前に倒して、押し戻されないよう一歩ずつしっかりと押します。

［下るとき］

坂が急なときはブレーキを軽く使いながら、後ろ向きに一歩ずつ下ります。
※安全ベルトを必ずご使用ください。

⑤階段

※階段での車いすの介助は危険が多いので、階段以外に経路がない場合以外は行わないようにします。
※やむを得ず階段での介助を行う場合は、少なくとも４人で対応します。

駐車ブレーキをかけ、利用者の安全ベルトをしっかり締め、固定されているパイプをしっかり支えます。

★肘掛け、脚部、押手などが固定式の車いすの場合

前の２人は肘掛けおよび脚部上部を持ちます。
後ろの２人は押手を持ちます。
ただし、いずれの部分も外れない事を確認してから持つようにして下さい。

★肘掛け、脚部、押手などが着脱式または可動式の車いすの場合

フレーム前下部を左右一人ずつ、ティッピングレバーを左右一人ずつ、しっかりと持ちます。
ただし、いずれの部分も外れない事を確認してから持つようにして下さい。

★できるだけエレベーターを利用しましょう。

最近は公共機関や民間施設でもエレベーターが設置されているところが増えています。危険を回避するためにも、遠慮せずエレベーターの場所を尋ねるなどして、できるだけエレベーターを利用しましょう。

⑥エレベーター

●前向きで入って後ろ向きに出る場合（中で方向転換できない場合）

[乗るとき]
ティッピングレバーを踏んでキャスタを上げたまま、前進し、乗り込んだら駐車ブレーキをかけます。

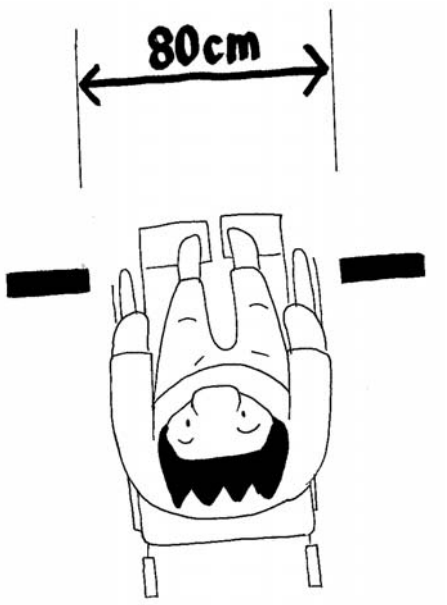
[降りるとき]
駐車ブレーキを解除し、ティッピングレバーを踏んでキャスタを上げたまま、後進します。

●後ろ向きで入って後ろ向きに出る場合（中で方向転換できる場合）

[乗るとき]
介助者が後ろ向きに先に乗り、ティッピングレバーを踏んでキャスタを上げたまま、後輪だけで後進します。乗り込んだら駐車ブレーキをかけます。

[降りるとき]
エレベーター内で方向を変え、ティッピングレバーを踏んでキャスタを上げ、介助者が後ろ向きになって先に降ります。

⑦狭いところの通過



狭い通路やドアを通過する時は、車いすの左右に注意します。
約 80cm の幅があれば標準的な車いすは通過することができます。

狭いところで使いやすい車いすとして、
六輪車いす(室内用)があります。

KAK18-40

KAK16-40-LO

[4]いろいろな車いす

1.車いすの種類

自走用車いす

標準型車いす	標準型前輪駆動車いす	六輪車いす
両手で後輪のハンドリムを駆動して操作する車いす	両手で前輪のハンドリムを駆動して操作する車いす	標準型後輪駆動車いすを、室内での使用を考え主輪を座席直下に配置し小回り性能を高めた車いす

簡易モジュール型車いす	モジュール型車いす	片手駆動型車いす
車輪の位置を変更することにより座面高など調整できるフレームをベースとした車いす	車輪の位置や座幅・奥行き・肘当て高さなど調整できるフレームをベースとした車いす	左右どちらか一方に大小のハンドリムが重ね合わせて設置された車いす

介助用車いす

標準型車いす	移乗動作対応型車いす	六輪車いす
移動に必要な操作を介助者が行う車いす	移乗動作を考えて肘掛け（アームサポート）脱着やフットレッグサポート脱着機構を備えた車いす	標準型後輪駆動車いすを、室内での使用を考え主輪を座席直下に配置し小回り性能を高めた車いす

リクライニング＆ティルテイング車いす

リクライニング車いす	フルリクライニング車いす	ティルティング車いす
背もたれが後方へ倒れる構造を持った車いす	背もたれと脚部が連動して動き、リクライニングできる車いす	背もたれと座面角度が一定のまま倒れる構造を持った車いす

新リクライニング車いす

新リクライニング車いす
背もたれを倒す、起こすの動作を繰り返してもお尻の位置がずれない機構によりリクライニングできる車いす

電動車いす

ジョイスティック型 電動車いす	ジョイスティック型 電動車いす（座面昇降）	ハンドル型 電動カート（スクータータイプ）
ジョイスティックレバーにより操作を行う４輪の電動車いす	ジョイスティックレバーにより座面昇降が行える電動車いす	バー・ハンドルにより操作を行うスクーター型電動車いす

電動化ユニット付車いす　※後輪駆動式車いすに後付けする装置です。

介助用電動補助ユニット	自走用電動補助ユニット
介助者が操作する介助用の電動補助ユニットで、介助者の押す力を軽減できる	ジョイスティックレバーにより操作を行う自走タイプの電動補助ユニット

簡易車いす

簡易車いす	簡易車いす＆歩行補助具
連続して長時間の使用には向かないが、携帯用に便利な車いす	連続して長時間の使用には向かないが、携帯用に便利な車いす 押手を前に回転させると歩行補助具としても使えます

歩行車いす
歩行器として使用し、疲れたら車いすとして利用可能な歩行車いす

2.車いすの機能と付属品

前頁のベーシックな機能のほかにも、身体・生活状況に応じた様々な機能やオプションパーツを組み合わせることで使用者の状態に合った車いすをつくることができます。

●各部の機能

機能名	説明	適している方
低床 タイプ	●座面が低い、一般的に 40cm 以下のもの。	●地面をけっての走行する方。
[肘掛け] ・デスク型	●肘掛け(アームサポート)が机に収まる形状になっている。	●テーブル等での作業が多い方。
[肘掛け] ・着脱 ・跳ね上げ ・横開き	●肘掛け(アームサポート)が取り外せる、後方に跳ね上げ、横開きができる。	●横からの移乗が多い方。
[脚部] ・エレベーティング	●脚部（フットレッグサポト）が上下し角度が自由に変えられる。	●膝の曲がらない方。
[脚部] ・スイングアウト	●脚部（フットレッグサポート）が開閉する。	●前方からの移乗が多い方。
[シート] ・適合調整	●背シート（バックサポート）の張り調整ができる。	●背が曲がっている方（円背の方）。

●オプションパーツ

オプション名	説明	目的・使用に適する方
延長ブレーキ棒	●駐車ブレーキのレバー長さを延長する棒。	●駐車ブレーキに手が届きにくいときや、力が入りにくいときに用いる。
円座	●坐骨部にじょく瘡ができるのを防ぐために用いる。また、安定して姿勢が保てるような目的でも使用する。	●車いすに長時間座られる方に適している。
かかと受け	●足のかかとを受けるためのベルト。	●ステップから足が後方に滑り落ちるのを防ぐ。
つま先止め	●足のつま先を止めるベルト。	●ステップから足が前方に滑り落ちるのを防ぐ。
ガートル棒	●点滴液の容器を頭上に吊り下げる棒。	●点滴が必要なときに用いる。
酸素ボンベ架台	●酸素ボンベを立てておく架台。	●酸素ボンベが必要なときに用いる。
足踏みブレーキ	●介助者が足で踏むタイプのブレーキ。	●介助者が駐車ブレーキを掛け易いようにする。
転倒防止バー	●車いすが後方に転倒するのを防ぐための部品。	●後輪の位置が通常より前方に取付けてある場合や重心が後方にある場合など転倒しやすい場合に取付ける。
背延長・ヘッドレスト	●頭部を支えるもの。	●頭部が不安定な方に適している。
泥除け	●タイヤの上に取付ける部品。	●泥や汚れの跳ね返りを防ぐ。
スポークカバー	●ホイルに取付ける。	●ホイルに指が挟まるのを防ぐ。
ハイポリマータイヤ	●クッション性が良く、ノンパンクのウレタン製タイヤ。	●空気補充の必要がない。
ソリッドタイヤ	●空気補充の必要がなくノンパンクキャスタ。	●室内専用。
ソフトキャスタ	●クッション性が良く、ノンパンクキャスタ。	—
エアーキャスタ	●空気の入ったキャスタ。	―

[5]保証について

★保証書および登録

［保証書］ 当社の車いすには、保証書が添付されております。
※返送用登録はがきと合わせて一枚になっておりますので、ご注意ください。

［ 登 録 ］ 返送用登録はがきに所定の事項を記入のうえ、商品購入後 1 ヶ月以内にご返送いただきご登録ください。
※ご登録がない場合は保証対象外となりますのでご注意ください。

★保証期間

お買い上げ日より 1 年間（消耗部品は含みません。）

★保証期間後

保証期間後はお買い上げの販売店にご相談ください。修理によって商品の機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。

★消耗部品

・肘当てパッド	・ワイヤー	・バンド式介助ブレーキ本体
・前輪(車輪のみ)	・背ベースシート	・ドラム式介助ブレーキ本体
・ベアリング	・背クッション	・ふくらはぎパッド
・タイヤ	・座ベースシート	・板バネ
・チューブ	・座クッション	・ガスダンパー
・虫ゴム	・足ベルト	・メカニカルロック

★保証の適用除外となる場合

（a）ご使用による消耗および取扱不注意による破損
例）タイヤの磨耗およびパンク、ワイヤー、シート、ステップ板の破損等
（b） 地震、台風、水害などの天災および事故、火災による焼失・破損
（c） お取扱の不注意、操作未熟ならびに故意または過失など誤って使用されたことによる破損
（d） 保全上の不備および弊社以外で行った修理や改造等による破損
（e） 弊社が指定する純正部品以外のパーツ等の使用により発生した破損
（f） 一般に車いすが走行しない場所、または特殊な状態での使用による破損
（g） 製品本来の使用目的にそぐわない使用による故障および破損
（h） 取扱説明書に従わずに使用して生じた故障および破損
（i） 取扱説明書に禁じられてる使用方法によって生じた故障
（j） ご購入後 1 ヶ月以内に返送用登録はがきをご返送いただいていない場合

★補修用性能部品の最低保有期間

弊社はこの商品の補修用性能部品を製造打ち切り後、5 年保有しています。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

★修理のご依頼

異常がある場合は、ご使用を中止しお買い上げの販売店にご依頼ください。

★本製品を他人に譲る場合

製品を他の方にお譲りになる時は、必ず取扱説明書もあわせてお渡しください。

★一度使用したものは、原則として製品のお取り替えはできません。

株式会社カワムラサイクル

■本社	〒651-2411	兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1	TEL078-969-2800
■仙台サービスセンター	〒982-0023	宮城県仙台市太白区鹿野3-1-1	TEL022-746-9540
■東京サービスセンター	〒110-0013	東京都台東区入谷 1-8-3	TEL03-3874-3511
■横浜サービスセンター	〒220-0073	横浜市西区岡野 2-12-9	TEL045-290-9585
■名古屋サービスセンター	〒487-0027	愛知県春日井市松本町１-３-11	TEL0568-52-4800
■大阪サービスセンター	〒553-0004	大阪市福島区玉川1-3-18 マックスビル 5F 501号室	TEL06-6479-2055
■本店サービスセンター	〒651-2411	兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1	TEL078-969-2820
■福岡サービスセンター	〒819-0055	福岡市西区生の松原１-18-3	TEL092-882-4722

■神戸工場　■神戸第二工場　■いなみの工場

2013.12